

平成 21 年 10 月 30 日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18700500  
 研究課題名（和文） イスラム社会の身体教育の特質に関する研究～アラブ・非アラブ諸国の比較考察～  
 研究課題名（英文） A Study on the Characteristics of the Physical Education in Islamic Society Comparative Consideration of Arabic and Non-Arabic Countries -  
 研究代表者 齊藤 一彦（SAITO KAZUHIKO）  
 徳山工業高等専門学校・一般科目・准教授  
 研究者番号：60413845

## 研究成果の概要：

本研究は、イスラム諸国のうち、わが国からスポーツ分野の派遣の実績のある、シリア、ヨルダン、エジプト、チュニジア、モロッコ、インドネシア、マレーシア、モルディブを取り上げ、これらの国々における身体面での教育の特質を学校体育制度や学校体育教員養成制度などといった側面から明らかにしようとしたものである。各国の身体教育システムの比較考察という観点から分析・整理を行うことで、各国の社会的背景の相違に基づく、身体教育の特質を導出することが可能となった。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
18年度	1,100,000	0	1,100,000
19年度	1,800,000	0	1,800,000
20年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,500,000	180,000	3,680,000

研究分野：スポーツ教育学、国際教育協力学

科研費の分科・細目：身体教育学

キーワード：イスラム社会、身体教育、国際協力、体育科教育

## 1. 研究開始当初の背景

我が国の国際協力において、教育支援の重要性は年々高まりつつある。しかし、未だ多くの途上国において、教育の男女格差、女子の低就学が大きな課題として指摘されている。特に、イスラム社会の国々において、そ

の問題は多く指摘されている。これらの国々では、女性の身体活動が抑制される社会風潮があり、女性の体位・体力の状態も決して良好な状態ではないものと思われる。こうした状況に対して、身体教育分野の支援活動の意義は小さくなく、実際にイスラム諸国からの女性スポーツ普及のための協力要請も増加

する傾向にある。にもかかわらずイスラム地域における身体教育の状況やそれに対する国際協力のあり方などについて、これまでほとんど明らかにされていなかった。こうした問題状況の下、イスラム諸国のうち、シリア、ヨルダン、エジプト、チュニジア、モロッコについては、本調査に取り組む以前に、既に身体教育事情調査を行っており、これら五カ国の身体教育の概要については明らかになりつつあった。しかし、上記五カ国はいずれもアラブ諸国であり、イスラム諸国の中でも“非アラブ”諸国については検討できていないのが課題となっていた。そこで、本研究では、イスラム諸国の中でもアラブ諸国・非アラブ諸国双方を対象として検討を行った。

## 2. 研究の目的

本研究では、イスラム諸国のうち、シリア、ヨルダン、エジプト、チュニジア、モロッコ、インドネシア、マレーシア、モルディブを取り上げ、これらの国々の身体面での教育の特質を学校体育制度や学校体育教員養成制度などといった側面から明らかにしようとした。これら八カ国はこれまでにわが国からスポーツ分野の派遣の実績がある国でもある。これら八カ国の身体教育システムの比較考察という観点から分析・整理を行いながら、イスラム社会における身体面の教育の特質について検討しようとするのが本研究の目的であり、同時に、国際協力の際にも有益な資料を得ようとした。

## 3. 研究の方法

本研究では、各国の社会・文化的背景、及び教育制度の概要を整理した上で、身体教育の社会的位置、身体教育の教育的位置、体育

教員養成システムといった側面から、これらの国々における身体教育の捉えられ方や、その特質性を検討しようとした。

これらの情報については、下記の通りの情報収集を行った。まず、シリア、ヨルダン、エジプト、モロッコ、チュニジアについては、本調査着手以前に現地調査に赴いたこともあり、その際に得た情報も本研究に取り入れているが、情報が不足する部分については、現地への資料送付依頼に加え、平成 19 年 3 月にシリア、ヨルダンにおいて実施した現地調査により補った。また、モルディブには平成 20 年 9 月に、インドネシアには平成 21 年 2 月に、マレーシアには平成 21 年 2 月～3 月にかけてそれぞれ赴き、現地調査を実施し、各国の教育統計、各機関の内規・シラバスなどの資料、及び各機関の代表者への聞き取り調査などから情報を得た。尚、本調査期間内の現地調査における聞き取り調査の主な対象者は以下の通りである（本調査期間以前に行ったエジプト、モロッコ、チュニジアについては省略する）。

### 【シリア】

- ・ シリア総合スポーツ連盟総裁（元教育省副大臣）、カマル・ターハ氏
- ・ 教育省体育局長、アリー・ターハ氏
- ・ 教育省体育局体育課長、イマード・アル・マンスール氏

### 【ヨルダン】

- ・ 教育省教育活動局体育活動課長、モハメド・ザザ氏
- ・ 教育省計画局、モナ・モウタマン・イマディディン氏

### 【モルディブ】

- ・ 教育省計画局、アフマド・シャフィーユ氏
- ・ 教育省学校保健局局长、フセイン・ラッシュェッド・モーサ氏

- ・ 青年スポーツ省スポーツフォーオール局  
局長、モハメド・ハニム氏

#### 【インドネシア】

- ・ ジャカルタ国立大学教育学部副学部長、  
スキリ氏

#### 【マレーシア】

- ・ 教育省スポーツ・芸術・カリキュラム局  
局長、ジェーム・アリップ氏
- ・ マレーシアプトラ大学教育学部スポーツ  
研究学科長、マロジョハン・ビン・ジャ  
マリス氏
- ・ マレーシアプトラ大学教育学部スポーツ  
研究学科、テック・ファディーラ・テ  
ック・カマルデン氏

## 4. 研究成果

八カ国とも、教育カリキュラムの中に学校体育が位置づいており、教育省（モロッコでは国民教育省、インドネシアでは教育文化省）が管轄をしている。また、学校外のスポーツは、スポーツ省、青年スポーツ省、スポーツ連盟など、教育省以外の専門組織の管轄となっているのも共通点である。

学校体育の時間配分をみてみると、初等学校段階の方に大きな時間配分がなされているのが、シリア、ヨルダン、チュニジア、モルディブであり、モルディブでは中等教育段階以降では体育が実施されていない。モロッコでは前期中等教育段階において最も大きな時間配分がなされている。エジプト、インドネシア、マレーシアでは初等・中等教育段階を通じて時間配分の大きな差はみられない。後期中等教育段階において、ヨルダンでは体育は選択科目としての取り扱いとなり、シリアでも1時間の配分に加え、理系は体育を履修しなくてよい学年もあるなど、特にシリアとヨルダンでは、学校段階が進むにつれ

て、体育の時間配分が少なくなる傾向がある。一方、マレーシアでは後期中等教育段階では体育に加え、「スポーツ科学」といった科目が選択科目として位置づけられている。世界的に体育の時間配分が削減傾向あることから比べると、学校体育の教育的位置は比較的高い国が多かったといえる。

各国の学習指導要領、教師用指導書等に記述されている学校体育の目標をみてみると、体力の増進や基本的な運動技能の向上など、諸外国の体育に共通してみられる目標は各国とも共通して設定されている。一方で、シリアやヨルダンでは「アラブ社会」「イスラムの考え方に」などの文言が散見されており、国家的・宗教的色彩の強い目標が示されていることが特徴的であった。八カ国の中でもパレスチナ問題などを大きく抱えているこの二国は、ほかの国々よりも社会的統制色の強いものが求められていると捉えることが可能であろう。特に軍事教育という科目が教育課程で実施されているシリアにおいて、その傾向はさらに強かった。

体育教員養成について、特に中等教育段階における体育教員の養成期間でみてみると、シリアでは二年制と四年制の二種類の養成課程があり、チュニジアでは前期中等教育段階は二年制、後期中等教育段階は四年制の養成期間となっている。モルディブでは中等教育段階で体育が実施されておらず、初等教育段階の教員は高等教育省管轄の教員養成カレッジにおいて養成教育が実施されているが、体育教員を専門的に養成できる機関ではなく、インドやスリランカなどの近隣諸国に体育の専門養成教育を依拠している状態である。その他の五カ国では、四年制での体育教員養成(中等教育段階)が実施されている。他の教科の教員養成との比較という観点で見ると、シリアは国語や数学などの教員

は四年制の養成期間を必須としているのに対し、体育教員は二年制の短期大学が主要養成機関となっており、他教科との差異がある。しかし、シリア以外の国々では他教科との資格・学歴上の差異はなく、体育教員の社会的位置づけは低いものではないといえる。以上の通り、専門の教員養成が存在しない国から、体育関連の博士課程まで設置されている国もあるなど、八カ国における体育教員養成の質と量は様々であった。

各国の身体教育関係者からの聞き取り調査において、共通の課題として指摘されたことは、「体育施設の不足」、「有能な体育教員の不足」など、開発途上国に共通している課題であった。特に、シリア、ヨルダン、エジプトでは女性のスポーツを取り巻く社会風潮が課題として指摘されており、女性スポーツ行政官の人事配置や、女性のスポーツ振興のための法整備など、さまざまな対策が行われていた。一方で、チュニジアやモロッコにおいては、女性の問題は課題として大きく認識されていないとの回答が見られた。実際に、この二国での女性スポーツ選手の活躍度などは高いことも事実である。このように、各国における女性スポーツ問題の状況や関係者の捉え方は様々であった。

八カ国各国において、教育省以外の専門組織によって、学校外スポーツが管轄されており、そこで主にスポーツ選手育成が図られているが、エジプト、チュニジア、マレーシアにおいては、スポーツを専門的に学ぶ学校が存在し、学校教育課程においてもスポーツ選手の育成に力を注ぐ方策が執られていた。

以上、八カ国の身体教育システムについて概観してきたが、イスラム社会で問題と指摘される男女差について、制度的な観点からその問題を導出することは困難であり、制度上

は平等性が保障されているといえる。シリアにおいてのみ、前期中等教育段階において、体育の時間配分数が男女で異なる学年などが存在したものの、その他の国では学校体育の制度上の大きな男女差は特に見受けられなかった。一方で、教育省ではなく、宗教省が管轄するイスラム学校などが設置されている国・地域もあり、宗教教育を行う特別な場所が別途存在するところでは、一般の学校教育の中には宗教的色彩が前面に出ないシステムになっていると捉えることもできる。

同じ国内でも地域差、宗教色の差などは相当に大きく、インドネシア、マレーシア、モルディブなどの島嶼国家、その中でもインドネシアやマレーシアのような多民族国家といわれる国々での国内における相違は相当に大きいことも本調査研究からも明らかになりつつある。今後は同国内での地域間格差に着目した研究などが課題になってくると思われる。

最後に、本研究の成果と公表状況について整理する。まず、当該諸国にどういった体育・スポーツ分野の国際協力が実施されているのかを明らかにしたが、これについては下記、「開発途上国への体育・スポーツ分野の国際協力に関する研究—青年海外協力隊の派遣動向分析—」の中で整理している。また、特にアラブ諸国の情報については、下記「アラブ諸国における身体教育システムの特質に関する研究—シリア・ヨルダンにおける身体教育の社会的・教育的位置づけ—」においてまとめた。また、本研究を行う中で、八カ国を含めたその他の開発途上国の身体教育事情などを整理してきたが、これらについては、下記「開発途上国のスポーツ教育事情についての研究動向とその成果」においてその成果を公表した。

現在は、今回の調査の中で得た情報の整

理・分析をさらに進めており、これを元にした研究論文の作成に目下取り組んでいるところである。

## 5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

1. 齊藤一彦「開発途上国への体育・スポーツ分野の国際協力に関する研究—青年海外協力隊の派遣動向分析—」運動とスポーツの科学、2006年12月、第12巻1号、35-41頁。
2. 齊藤一彦「アラブ諸国における身体教育システムの特質に関する研究—シリア・ヨルダンにおける身体教育の社会的・教育的位置づけ—」日本教科教育学会誌、第30号、2007年12月、11-20頁。

[学会発表](計1件)

齊藤一彦「開発途上国のスポーツ教育事情についての研究動向とその成果」日本運動スポーツ科学学会国際健康・スポーツ部会第7回大会、2009年8月25日、大阪大学。

## 6．研究組織

(1)研究代表者

齊藤 一彦 (SAITO KAZUHIKO)

徳山工業高等専門学校・一般科目・准教授

研究者番号：60413845